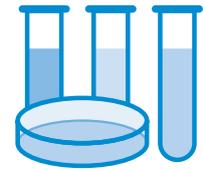


## 細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)

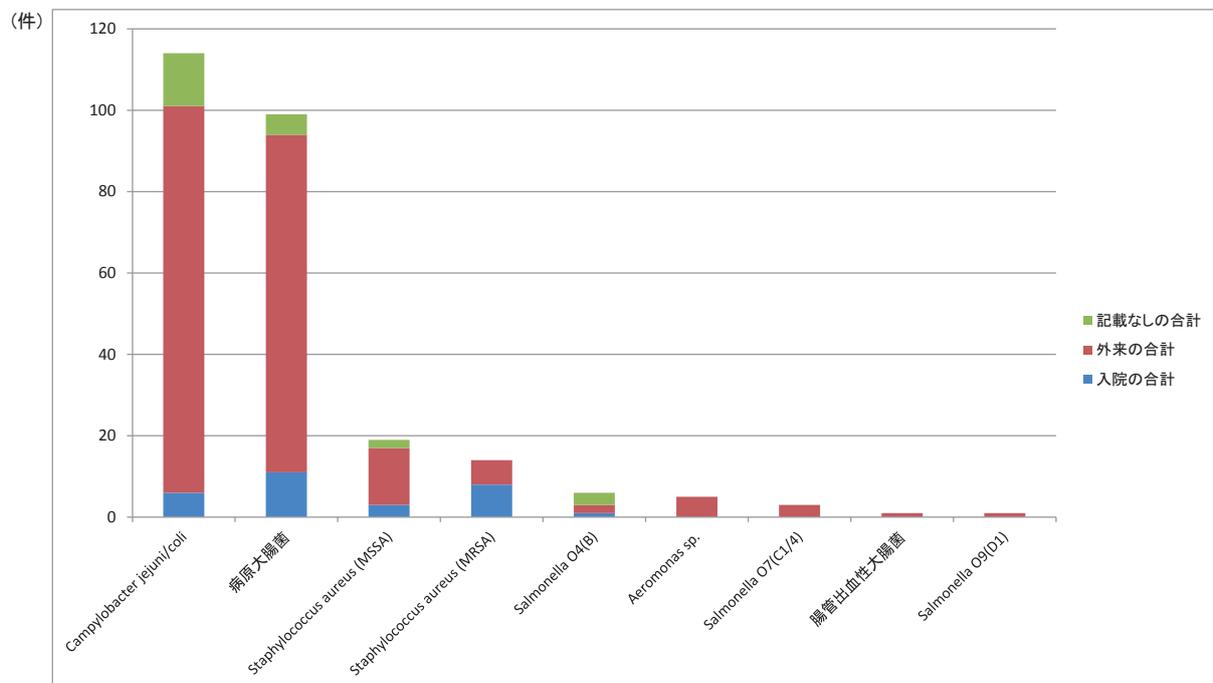


当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況を一部取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されていますので、併せて診療にお役立ていただけたら幸いです。

今回は、糞便からの細菌検出状況と、その中で検出されている *Campylobacter jejuni/coli* の2017年月別検出状況を掲載いたします。

### 【細菌検出状況】

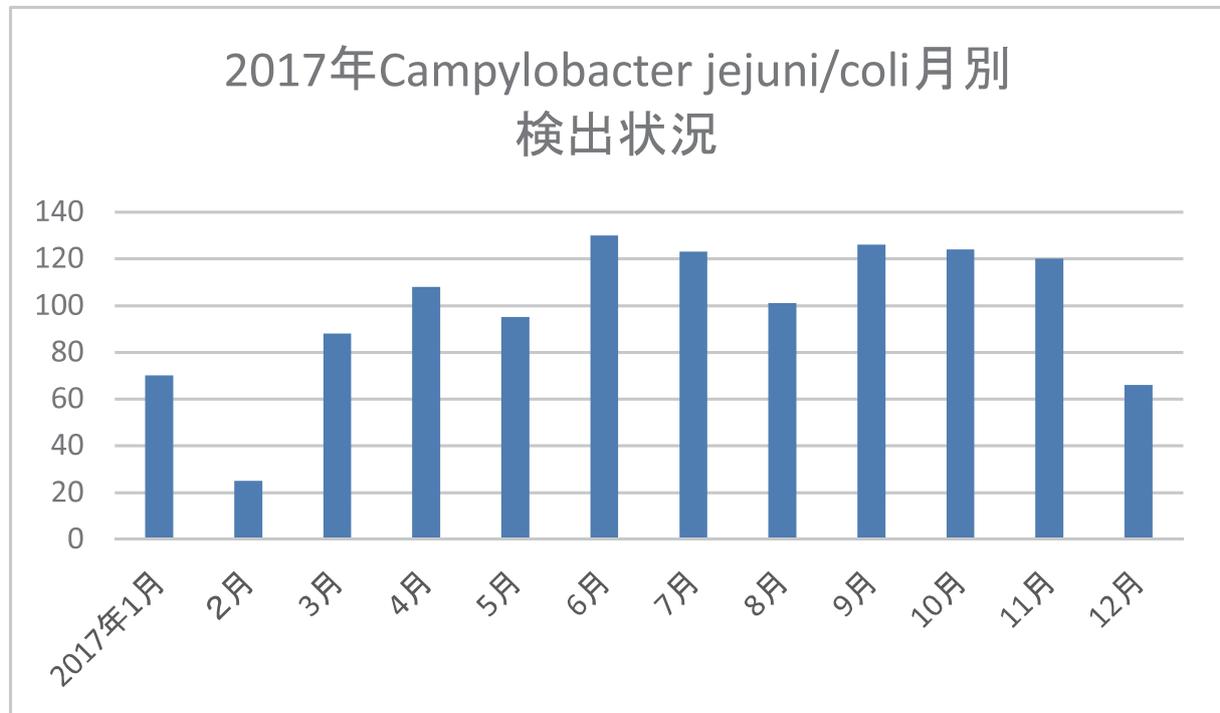
#### 【糞便】細菌検出状況 2018年07月



*Campylobacter jejuni/coli* はらせん状のグラム陰性桿菌で、発育には低い酸素濃度を要求する微好気性菌です。家畜や家禽、犬や猫などのペットの腸管内に常在しており、これらの動物を介してヒトに感染します。

少量の菌でも感染し、下痢・血便・腹痛・発熱・嘔吐などの症状をきたします。また、潜伏期間が1～7日と比較的長く、死亡例や重篤例はまれですが、乳幼児や高齢者、その他抵抗力の弱い方では重症化する危険性もあり、注意が必要です。

## 【Campylobacter jejuni/coli 月別検出状況】 2017年分



Campylobacter jejuni/coli は年間を通じて多数検出されていますが、気温や湿度が高くなる6月から11月にかけて特に多く検出される傾向があります。

Campylobacter 腸炎の治療は一般的に対処療法で自然治癒する場合がありますが、重篤な症状の場合は抗菌薬の投与が必要となります。第一選択薬としてマクロライド系薬剤の使用が推奨されています。また近年ではニューキノロン系薬剤に対して耐性を示す株も存在し、世界的に問題になっています。

当検査センターホームページでは細菌検出状況(検査材料別)、細菌薬剤感受性情報(菌種別)、薬剤耐性菌分離状況についての情報をご覧いただけます。

<http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>  
検査科微生物係